

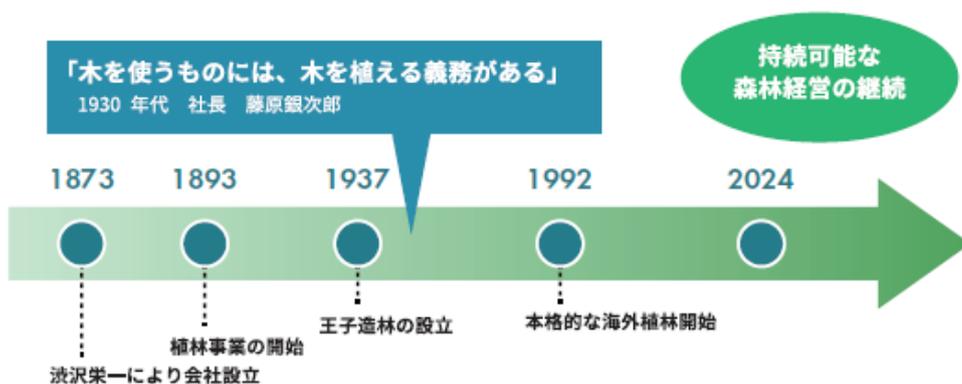
自然移行計画

(1) 方向性

持続可能な社会の実現に向けて

王子グループは100年以上にわたり、持続可能な森林経営を実践してきました。グループで最大規模の社有林を管理するCENIBRAでは、企業活動が自然にポジティブな影響を与えていることが、第三者の審査により証明されました。

- 100年以上にわたる持続可能な森林経営



王子グループは、長年培った森林資源に根付いたネイチャーポジティブな事業運営技術を活かし、昆明・モントリオール生物多様性枠組（GBF）のゴール・ターゲットの達成に貢献します。GBFを尊重したコミットメントや目標、およびそれらを達成するための取り組みは、取締役会の監視・監督の下で策定・実施しています。

王子グループは[生物多様性コミットメント](#)、[森林破壊・転換ゼロコミットメント](#)の下、持続可能な森林経営、気候変動への対応、環境負荷の低減を継続し、再生可能な森林資源を活用したビジネスの拡大、サステナブルパッケージの開発・拡販、森林機能の経済価値評価を行い、ネイチャーポジティブ、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーといった持続可能な社会の実現に貢献します。

- 持続可能な社会の実現・持続的成長への取り組み



■ 生物多様性コミットメント内の宣言



回避・削減

GBF Targets

- 「[森林破壊・転換ゼロコミットメント](#)」の下、森林破壊・転換を行いません----- 1
- 森林の水源涵養機能を維持し、淡水資源の創出に貢献します ----- 11
- 大気・水質・廃棄物汚染の防止・削減により、自然損失を回避します----- 7
- 環境配慮型紙パッケージ製品の拡充を通じて、川下におけるプラスチックからの汚染のリスクと悪影響を軽減します----- 7
- 生物多様性と密接に関係する気候変動の緩和策として、自社が管理する植林地及び天然林によって、大気中の二酸化炭素の吸収・固定を維持・促進します----- 8



再生・回復

- 天然林の再生を通じて、自社社有林の生態系を回復・再生します----- 2
- 緑の回廊の設置を通じて、自社所有地外の生態系を回復・再生します----- 2



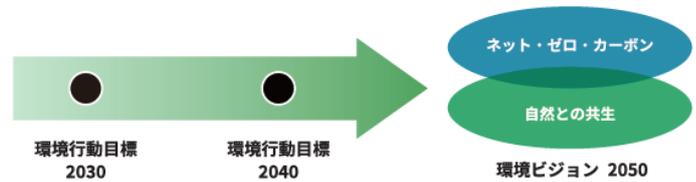
ステークホルダーエンゲージメント

- 先住民族・地域コミュニティを含めたステークホルダーの人権を尊重し、事業活動を行います----- 1,2
- 国連人権理事会「ビジネスと人権に関する指導原則」に則った救済窓口を設置し、ステークホルダーからのアクセスを確保します ----- 9

(2) 行動目標

行動目標

王子グループは、持続可能な社会の実現に向け、2050年のあるべき姿として「ネット・ゼロ・カーボン」「自然との共生」を目指す長期ビジョン「[環境ビジョン 2050](#)」、そのマイルストーンである「[環境行動目標 2030](#)」を策定しています。さらに2025年5月、新たに「[環境行動目標 2040](#)」を策定しました。



■ 王子グループ 環境行動目標 2040（一部抜粋）

1. 気候変動への対応

1) スコープ 1,2 GHG 排出量削減

- ◇ スコープ 1、2 排出量を 2018 年度対比 50%削減
- ◇ 2018 年度排出量の 50%相当分を森林により吸収固定

2) スコープ 3 GHG 排出量削減

- ◇ チップ船からの排出量を 2018 年度対比 40%削減

2. ネイチャーポジティブの推進

1) 豊かな森づくり

- ◇ 森林破壊ゼロの継続
- ◇ サプライヤーデューデリジェンス 1 回/年以上実施
- ◇ 森林認証取得率 100%と森林認証製品の拡充

2) 生物多様性保全

- ◇ バリューチェーンを含めた事業活動において自然への重要な依存と影響を特定し、生態系に配慮した事業活動を通して生物多様性の損失を回避する。
 - ・ 天然林再生面積（2018-2040）5,000ha 以上
 - ・ 郷土樹種植栽本数（2018-2040）900 千本以上
 - ・ 緑の回廊設置面積（2018-2040）6,000ha 以上
- ◇ 先住民族を含む地域社会や環境 NPO と協力して、稀少動植物の保護・育成や生態系の保全・回復に取り組む。
- ◇ プラスチック汚染の防止に向け、環境配慮型紙パッケージ製品や生分解性・バイオマス素材の研究開発を推進する。

3. サーキュラーエコノミーの推進と汚染物質削減

1) サーキュラーエコノミーの推進

- ◇ 廃棄物有効利用率維持、向上：国内 99%以上、海外 95%以上
- ◇ 古紙利用の推進：国内段原紙古紙利用率 90%以上
- ◇ 取水量削減：取水総量 2018 年度対比 10%以上削減
- ◇ 高水リスク地域におけるステークホルダーエンゲージメント 1 回/年以上実施
- ◇ 再生可能な森林資源を用いた、木質由来糖液をはじめとする化石資源代替素材の製造技術の確立と商用化

2) 汚染物質の削減

- ◇ 排水：BOD,COD,SS 総量 2018 年度対比 20%削減
- ◇ 排気：SOX 総量 2018 年度対比 50%削減
NOX 総量 2018 年度対比 10%削減
VOC 排出原単位 2018 年水準の維持

4. ステークホルダーエンゲージメント

1) サプライヤーマネジメントの推進

- ◇ サプライヤー人権・環境デューディリジェンス 1 回/年以上実施

2) 環境事故ゼロ、製造物責任事故ゼロ

- ◇ 環境法令違反、製造物責任事故をゼロとする

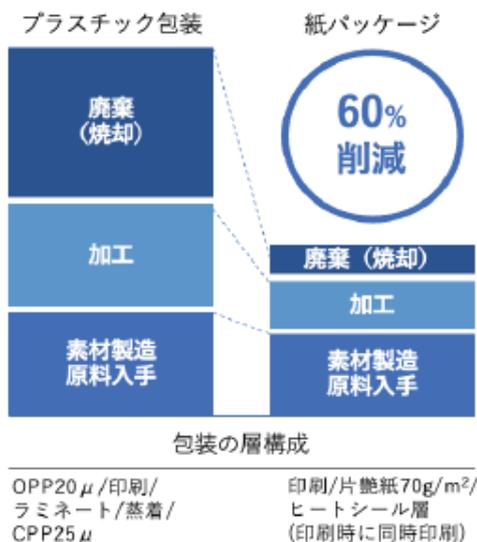
(3)サステナブルパッケージの開発・拡販

脱プラ・減プラを推進する紙素材のサステナブルパッケージ

プラスチック汚染へのソリューションとして、王子グループでは包装資材におけるバリューチェーン全体で環境負荷を低減する紙素材でできたサステナブルパッケージの開発・拡販を進めています。紙製の包装資材は、プラスチック使用量の削減とCO₂排出量の削減に貢献できるため、持続可能な社会の実現におけるインパクトが大きく、中核的な役割を果たしています。

2024年度には約3,000tのサステナブルパッケージを販売しました。2030年度までに年間5,000tのサステナブルパッケージの拡販を目指しています。

■ 紙パッケージ導入によるCO₂排出量削減効果



➤ 環境規制を先取りする欧州/包装資材加工のトップメーカー Walki(ワルキ)

環境規制が強まる欧州では、「包装・包装廃棄物法令(PPWR:Package and Package Waste Regulation)」の施行を目前に控え、世界中の包装資材メーカー、ブランドオーナーは、リサイクル可能、リユース可能、コンポスト可能な包装への転換を急速に進めています。2024年に当社グループに加わったWalkiは、持続可能なパッケージと加工技術のイノベーションにつながる研究開発を積極的に行っており、EU包装規制に適合する資材について欧州トップクラスの製造ノウハウを保有しています。エンドユーザーとの共同開発による製品開発力と幅広い包装資材の提案力を強みに、食品・日用品のグローバルブランドの製品に多数採用されています。



Walki製リサイクル可能な紙パッケージ採用事例:
仏大手乳業メーカーLaita社のブランド
「Pavsan Breton」のクレープ菓子の外装袋

▶ プラスチックパッケージから紙パッケージへの切替ソリューション

循環型社会の実現に向けてサステナブルパッケージへの切替を検討されるお客様のニーズに応え、さまざまな紙製パッケージを提供しています。たとえば、食品などの内容物の劣化を抑えるバリア性を備えた紙製包材や、既存のプラスチック用包装機械をそのまま活用ながら紙素材へ切り替え可能な包材など、環境配慮と実用性を両立した製品開発を進めています。（下記採用事例）



ブルボン株式会社様
「贅沢ルマンド」外装袋



本田技研工業株式会社様
「N-BOX向け補修交換用ワイパーゴム」外装袋

▶ プラスチック容器の代替: パルプモールド

電子機器/雑貨用等の容器包装や、食品容器等、様々な形状に合わせた容器包装に対応できるパルプ・紙製容器包装ソリューションの提供、お客様の要件に応じた開発を進めています。



高品質パルプモールド容器

▶ 減プラに寄与する、水系塗工紙基材

当社の塗工技術により紙表面に薄く均一な水系樹脂層をコーティングした紙基材は、従来のラミネート品と比べプラスチック使用量を削減できます。この紙基材を紙コップなどの加工品へと適用するべく、さらなる開発を進めています。



水系塗工コップ

(4) 自然資本価値最大化に向けた取り組み

世界規模で自然の状態劣化が指摘される中、自然の状態を定量的に経済価値として捉える「自然資本会計」を制度化し、投資を促して回復を目指す議論が活発化しています。王子グループでは、自然の価値を定量評価する「王子モデル」の構築と、その価値を最大化しながら実際の経済価値に繋げる取り組みを進めています。



自然資本会計の制度化に向けた積極的な関与

「自然資本会計」の制度化に向けては、グローバルに関係者と議論することが重要だと考え、国際会議での情報発信や、国際団体への参画による活動など、積極的な働きかけを行っています。

国連気候変動枠組条約第29回締約国会議(COP29)、生物多様性条約第16回締約国会議(COP16)、WEF(世界経済フォーラム)、OECD(経済協力開発機構)、London Climate Action Weekなどの国際会議の場で講演の機会を頂き、王子グループのネイチャーポジティブや森林管理の重要性に関する情報発信を行っています。



COP16のサイドイベントで登壇する磯野CEO
(2024年11月)



COP29のサイドイベントで登壇する鎌田専務(現副社長)
(2024年11月)

▶ International Sustainable Forestry Coalition (ISFC) への参加

ISFC は、森林所有者や森林投資事業者など世界各地の企業 22 社（2025 年 7 月末時点）によって構成されている国際的な団体であり、当社は設立メンバーとして参加しています。持続可能な森林管理を基盤とし、森林セクターの意見を集約して発信することにより、気候変動、生物多様性の損失、森林面積の減少といった国際的課題へ対処しています。ISFC においても、森林の持つ様々な生態系サービスの評価等、自然資本会計のベースとなる議論へ積極的に関与しており、2025 年度は、Capitals Coalition^{※1} および TNFD と共同での、森林セクター共通の自然資本会計の原則と報告フォーマットの適用を目指すプロジェクトを開始しています。所有・管理する広大な自然資産の自然資本会計に取り組むに当たっては、一貫した基準体系を利用します。



ISFCのStrategy Session にて静岡県の王子の森訪問
(2024年8月)

※1. 2030 年までに、ビジネス、金融機関、政府の大部分が、自然・社会・人的資本の価値を踏まえた意思決定を行う状態を目指す団体



▶ 自然資本会計コンソーシアムへ参加

東京大学グローバル・コモンズ・センターを中心に、国内産業界が連携し、計測された自然資本の価値を財務会計に統合することを目指して CGC-NBS 協賛事業が設立されました。これに王子ホールディングスも協賛し、国内企業と業界横断で取り組み、日本の立場で意見を発信して、ルールメイクに関与する方向です。



▶ WEF の Forest Economy グループへ参加

WEF の下部組織 Global Future Council のうち、Forest Economy グループにも加入しました。同組織は、産業としての林産物の供給と、ランドスケープ^{※2}の再生、土壌、水質への貢献、生息地の連結性、バイオエコノミーへの貢献等に注目しています。各ステークホルダーによる集合的な検討により、林業がランドスケープの再生に果たす役割の定義や、原材料供給と生態系サービス供給に貢献する、複合的な森林ランドスケープに対する新たなファイナンスモデルを促進すること等を目指しています。



※2. 人工林と天然林、草地等の異質な生態系がモザイク状に分布する空間の、全体的なシステムのこと。